

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
確率論的安全評価（レベル1及びレベル2）分科会
第13回 レベル2PSA作業会 議事要旨

日時：平成17年4月13日（水） 13:30～17:30

場所：原子力安全基盤機構 第11C会議室

出席者：

委員 梶本、住田、杉山（立岩代理）、石川、大野、加藤、倉本、谷川、濱崎、山越 10名

（欠席 黒田、桜本、久持、日高）

常時参加者 荻野、川端、舟山

配布資料：

P4WG13-1 第12回作業会議事要旨（案）

P4WG13-2 レベル2PSA標準（案）

P4WG13-3 <地震手順書>7.6 格納容器健全性に関する評価

議事概要

議事に先立ち、主査より委員10名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事要旨確認（P4WG13-1）

地震動に応じた手順に関するコメントがあり、当該コメントを反映することで承認された。

2) レベル2PSA標準（案）（P4WG13-2）

本文及び解説について以下の議論があった。

また、次回の会合にて、本文及び各解説について5～10個のコメントを各自提示する方法で詳細なレビューを実施することになった。

（解説9.1）放射性物質放出カテゴリ

- ・ プラント損傷状態、格納容器破損モードを主軸にして放出カテゴリの重要な要因であることを記載するように見直す。
- ・ 例示に関する注釈としてプラントの特徴に合わせて例示する内容を削除、修正、追加することにより適切に設定可能である旨を記載する。この文言は、他の解説にも適宜挿入する。

（解説7.2）解析コードの概要

- ・ 各コードを比較する内容は含めず、持っている機能の記載内容にする。

（解説11.3）不確かさ評価

- ・ 不確かさを固有のaleatory uncertaintyと知識不足のepistemic uncertaintyに分ける考え方について取り扱いを検討する。
- ・ 不確かさ評価対象のパラメータの例示及び各パラメータの不確かさの分布をエラーファクタなどの大つかみで例示できないか検討する。
- ・ ソースタームの放出開始、放出量に関する時刻歴の不確かさ幅の表示例を検討する。

以下は、前回コメントを反映して見直した案について、議論した。

（本文）

- ・ まえがき部分で、「実施基準」と「技術基準」の2つは、いずれかに統一するほうが良い。

（解説4.1.1）及び（解説4.1.2）ならびに（解説5.1.1）及び（解説5.1.2）

- ・ PWRとBWRで解説記載内容が重複する「プラント損傷状態の分類」及び「格納容器破損モード」については、ひとつの解説記事にまとめる。

（解説5.2）格納容器健全性に影響を与える負荷

- ・ 格納容器の過圧破損、過温破損について説明を追記する。

（解説6.1.1）及び（解説6.1.2）格納容器イベントツリの分岐項目

- ・ 解説記事であるので、「～必要である。」を「～重要である。」に見直す。
- ・ PWRとBWRで解説記載内容が重複するため、ひとつの解説記事にまとめる。

（解説6.2.1）及び（解説6.2.2）格納容器イベントツリ

- ・ PWRとBWRで解説記載内容が重複するため、ひとつの解説記事にまとめる。

4) 地震時の格納容器健全性に関する評価 (P4WG13-3)

地震PSA分科会事故シーケンス評価作業会からの依頼により議論した。

- ・ 格納容器破損頻度の評価の解説はレベル2PSA標準に記載するので削除する。
- ・ 記載内容全体を、地震時の検討として新たに追加する内容に限定すべく更に見直す。

5) 今後の予定

- ・ 第14回作業会予定：4月26日(火)
- ・ 第15回作業会予定：5月23日(月)

以上